職員のみなさんへ一言メッセージ（第１１７回）

みなさん今晩は、この原稿を書いている今夜は、クリスマスイブです。

昨日（２３日天皇誕生日）の昼は「なかよし祭り」、夜は「忘年会」と年末の行事も一つ一つ終わり、いよいよ、年の瀬も押し詰まって来ました。みなさんにとって今年はどんな年でしたでしょうか。

真和館にとって、今年は、設立１０年目に当たる年です。記念式典でもしなければならないのかもしれませんが、式典をする余力があれば、その力を真和館の充実や地域貢献に向けたいという思いを元々持っていました。

そこに、養護老人ホームの話が出て来て、幸いにも具現化しつつあります。この老人ホーム建設こそが、天が私ども社会福祉法人致知会に与えた１０周年目の贈り物だと思い定め、真和館で培われた経営力や処遇力を新たな施設で展開してみたいと思っています。

さて、今年の真和館の大きな成果は、最も真和館が力を入れて取り組んでいるアルコール依存症問題で、これまでの「真和館に居られる限り、飲まない、飲ませない」という取り組みから、「施設を出てからも、飲まないで暮らせる」取り組みに、大きく飛躍できたことであります。

それは、アルコール依存症の方が、２年の居宅生活訓練を経て、今年の春に地域に戻られたことであり、アルコールを中心とした様々な依存症関連のプログラムが、一段と充実をしたことであります。

次に、今年の大きな成果は、卓球バレーで「わかやま大会」に出場したことであります。この話の元々の起こりは、熊本でこれまで一番強かった「火の国チーム」が諸般の事情で、和歌山まで行けないので、「真和館チーム」が熊本代表として、国体に行ってくれという話から始まりました。

熊本県という看板を背負うなら、簡単に負けられないと思って練習に励むことにし、幸い、練習の成果も上がり、別府市の太陽の家で開催された九州の代表チーム選考会で優勝し、既にこれまでの実績で出場が決定していた２チームと一緒に、九州・山口の代表チームとして国体に出場ができました。

監督の森田職員が卓球バレーの入所者のみなさんの心身に及ぼす影響を分析されていましたが、職員の手間や費用（県外の大会に出れば宿泊代等は嵩みますが）の割には支援の効果が高く、誰でも気軽に参加できるスポーツでもあります。真和館のメインのスポーツとして大事に育て上げて行きたいと思います。

さらには、春には本館の増築が完成し、入所者のみなさんの個室化が進み、内観や実習生の宿泊あるいは感染症対策に利用できる部屋も確保できました。

この１０年間の歩みの評価である第三者評価の結果も、２８日には届きます。

平成２８年が皆様にとって、輝かしい年になりますよう祈念申し上げます。

平成２７年１２月２５日　真和館施設長　藤本和彦